

日立(6501)



－ 円高に修正も業績予想は据え置き －

日立が28日に発表した上期決算は、売上高が円高や日立物流と空調事業の再編の影響で前年同期比9.4%減収、営業利益が同15.0%減益となりました。しかし、営業利益は円高の影響を除くと前期並みの水準で、事業部門別では9セクター中8セクターが円高の影響を除くと増益を確保しています。

通期の業績予想は、為替の想定レートが円高に見直されたにも関わらず売上高で9兆円、営業利益で5400億円と従来予想から据え置きとなりました。下期の想定レートはドル円で110円から100円に、ユーロ円で120円から110円に修正されており、この見直しによるマイナスはポンドと元の影響も加えて売上高で1800億円、営業利益で270億円となります。

それでも業績予想が据え置かれたのは、上期の営業利益が情報・通信システム事業や電子装置・システム事業などを中心に未公表の社内計画をトータルで300億円上振れたことに加え、構造改革や原価低減策の効果が期待できるためです。為替の想定レートが円高に修正されたにも関わらず業績予想が据え置かれたことで決算発表翌営業日(10月31日)の日立の株価は5%高となっています。

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会:日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会